

旧下ヨイチ運上家 見学レポート

2024年8月5日
クライメート・リアリティ・プロジェクト ジャパン
インターン 渡辺由希

CRPジャパンのインターン4名は、札幌の上映会および余市[エコビレッジの体験学習](#)に併せて、アイヌの文化を学びに旧下ヨイチ運上家を見学しました！

クライメート・リアリティ・プロジェクトは、気候危機の解決だけでなく、気候正義の実現を重要なミッションの一つに掲げています。なぜなら、私たちの社会の構造的な不公平・不公正が、特定の人々を気候変動に対して脆弱な立場に置いているからです。

今年4月にCRPジャパンが発行した「[誰ひとり取り残さない 世界と日本の気候正義を知ろう](#)」の日本編では、今の日本社会で脆弱な立場に置かれやすいアイデンティティの一つの例として日本の先住民族であるアイヌ民族についてのリサーチを行いました。

文献を読むだけでなく、実際に行って、見て、聞いて、知ることは何物にも代えがたい学びとなります。それは[余市エコビレッジの体験学習](#)で強く感じたことでもありますが、旧下ヨイチ運上家にも実際に足を運び、アイヌの人々が数多く北海道の地に暮らしていた時代のことを感じる事ができて、非常に有意義な時間となりました！



運上家とは、江戸時代において北海道の蝦夷地で商業活動が行われた拠点です。アイヌ民族と和人の間の交易が行われた場所であり、商人がアイヌの人々から水産物や手工芸品を受け取り、米や酒、塩などと交換するための中心地となっていました。そのうち旧下ヨイチ運上家は、現存する唯一の運上家で、嘉永6年(1853)に建てられた貴重な遺構です。



アイヌの人々にとっても運上家は重要な交易の場所でありましたが、それはもともと行っていた自由な交易を制限されたことが背景にあります。15世紀後半から和人は、蝦夷地での活動範囲を拡大していき、幕府はどんどんとアイヌの人々の移動や交易・漁の権利などを厳しく制限したり、不公平な条件での交易などを強いていきました。これにより、アイヌの人々の生活様式は大きな変化を余儀なくされたという歴史があります。運上家は、アイヌ支配のための行政的施設という性格ももっていたと言われてています。

実際に見学した運上家の中は、幕府が人々を支配するために作った身分制度が色濃く現れており、敷居の高低や内装などに格差がありました。勤番侍には高い座敷が与えられていながら、入り口近くには使用人用の簡素な板張りの部屋などもありました。右側の入口は武士専用の出入口で、商人などは左側の出入口しか使用してはいけないというルールがあったようです。私たちも左側の出入り口を使用しました💧

運上家は、アイヌ文化の理解を深めるための場所であり、過去の歴史を振り返る機会にもなります。余市に行かれる際は、足を運んでみてはいかがでしょうか！



参考文献

- [旧下ヨイチ運上家 —文化遺産オンライン\(文化庁\) 2024/8/5最終閲覧](#)
- [北の生活文化\(中世から近世のアイヌの人々\) —北海道 2024/8/5最終閲覧](#)
- [アイヌ民族～歴史と文化 —公益財団法人アイヌ民族文化財団 2024/8/5最終閲覧](#)